



公共建築を、建築家の自己表現のための『記念碑』にしていいはずはありません。この案は市民の感覚とかけ離れています(インタビュー・小田原のまちづくりと市民ホールを考える会)。建築は設計から完成までの一連の行為で成り立つもの。市長が城下町ホールに対する説明責任を果たすことは、設計事務所に対する礼儀でもあると思う(インタビュー・植田理都子小田原市議員)。



特集 公共建築は身の丈であるべきか

「小田原市がコンペで選んだ『都市の中の広場』がなぜ駄目なのですか」山本理顕

「私たちは『身の丈に合った』ホールを望む」小田原のまちづくりと市民ホールを考える会

「民意を受けて、ホールの見直しをすることは民主的ルール」小田原市・小田原市長

「多目的ホールの難題に積極的に取り組んだ魅力ある案」本杉省三

「コンセプトを持って使い方を検討すれば面白い劇場」大田和司

コラム「官僚主導型の公共建築づくりは要りません」北山恒

「コンペ要綱に発注者側の責任を明記して

建築家の権利を守っていく」木村草太

「市は設計者を選び、発注したなら、

中断した説明責任はごく自然のこと」植田理都子



斜庭の町家

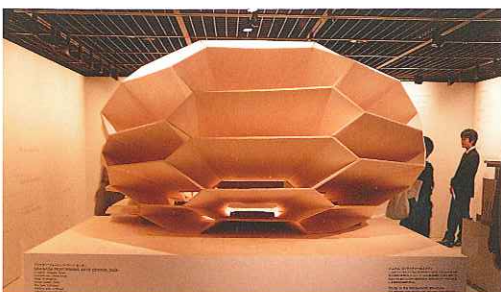
オープンハウス②

柳沢 究

クローズライン |

負ける建築から〈有機的建築〉へ。
世界はローカリズムを求めている

— 隈 研吾



美しき構造設計の世界⑪ | 渡辺邦夫「ローマオリンピック・小体育館」

論評 | 建築家の仕事はハコモノづくりのお手伝い? = 清水勉

オピニオンの視線 | 納戸化した日本の住まいをリノベーション = 喜多俊之

各地域に拠点を置く設計事務所の
作品集
建築集